

## シラバス詳細

保健医療福祉科目													
授業科目名													
カリキュラム2012													
IPW論 Interprofessional Work													
No.	時間割番号		開講時期						曜日・時限				
1	100300301		前期						月曜3限				
2	100300302		前期						月曜3限				
配当年次 および 必須 (○)・選択 (○) の別													
No.	看護	理学	作業	社福	社福	福子	行動	検査	口腔	教職			
	編入			編入	専攻	編入	専攻	専攻	専攻				
1	2○	3○	2○	2○	2○	3○	2○	3○	2○	2○	3○	2○	2○
2	2○	3○	2○	2○	2○	3○	2○	3○	2○	2○	3○	2○	2○
履修における注意点・履修条件等													
ヒューマンケア論・ヒューマンケア体験実習につづく全学必修の科目です。履修者は前期の前半（学籍番号が奇数=①）、後半（学籍番号が偶数=②）に分かれていますので、掲示などにより自分がいつ履修するのか確認してください。またチームごとおよび授業内容によって講義室が変わることがありますのでご注意ください。													
科目責任者	新井 利民			単位数・時間数	1単位 15時間			授業形態	講義				
科目担当者	北島裕子、櫻井育穂、高柳雅朗、廣田千穂												
授業の概要													
IPW論は、保健医療福祉・教育分野の多職種が、患者・利用者中心の支援活動をチームで行うための基本的な考え方とスキルを学び、3年次のIPW演習、4年次のIPW実習に発展していく科目です。IPW論では「尊重」をテーマに、自分が目指す職種及び自分以外の関係職種の理解、およびチーム活動の基本的なスキルの獲得を目指します。これらに関する考え方・理論を講義にて教授するとともに、異なる学科の学生による混合グループでチーム活動を行い、体験を通じて学びます。ヒューマンケア論（共有）、ヒューマンケア体験学習（発見）を基盤として、IPW論（尊重）、IPW演習（合意）、IPW実習（創造）と学年進行に伴って連携と統合のための能力を養う保健医療福祉科目の一科目です。また本科目は「彩の国連携大学連携科目」の一つです。													
学習のねらい													
授業の到達目標として、次の4つを設定しています。													
①患者・利用者を中心とした専門職連携実践の意義と方法を理解する													
②チームメンバー個人やその専門分野の特徴と多様性を相互に理解する													
③チーム形成の理論と方法を学び、課題解決のための議論を主体的に行う。													
④リフレクションの理論と方法を用いて、チーム活動に関する今後の自己学習課題を明確にする。													
関連するディプロマポリシー													
この授業を通じ、D P 1に示された「対象者の多角的な理解」、D P 2に示された「多面的な視点からの課題へのアプローチ」や「専門的かつ総合的な視点」、そしてD P 3に示された「多様な人々とのコミュニケーションを図りながら連携する」ということを体験的に学び、患者・利用者を中心とした保健医療福祉連携を可能とする基礎的な力を養います。													
授業の到達目標及び授業概要													
回	授業の到達目標			授業概要				担当教員		講演者			
1	専門職連携実践が必要とされている背景と、本授業で獲得を目指す連携の能力の概要を理解する。			【奇数クラス】4/8 【偶数クラス】6/10 オリエンテーション、チームづくり (北203-204および207-208)				新井、北島、櫻井、 高柳、廣田		<input type="checkbox"/>			
2	本学で養成していない専門職の、養成教育の課程や学生生活の様子を知り、またそれぞれがどのような連携実践の場面において、どんなことに留意し、行動しているのかについて理解する。			【奇数クラス】4/15 【偶数クラス】6/17 多職種の理解（ゲストスピーカー）医師、栄養士、 コミュニティ・デザイナーなど (北346大講義室)				新井、北島、櫻井、 高柳、廣田		<input checked="" type="checkbox"/>			
3	本学の異なる学科の学生同士グループを形成し、各メンバー個人の理解と、そのメンバーが学ぶ専門知識・技術に対する理解を深める。また、ディスカッションやコミュニケーションの基本的様態について理解し、実践する。			【奇数クラス】4/22 【偶数クラス】6/24 多職種及び他者の理解／「ディスカッション」の基本的理解 (北203-204および207-208)				新井、北島、櫻井、 高柳、廣田		<input type="checkbox"/>			
4	チームによるディスカッションのための方法論に基づき、実際にグループディスカッションを行い、基本的方法を習得する。			【奇数クラス】5/6 【偶数クラス】7/1 チームによる「ディスカッション」の理論と実践				新井、北島、櫻井、 高柳、廣田		<input type="checkbox"/>			
5	リフレクションの意義と意味を理解し、実際に各グループでリフレクションを行うことを通じ、個人及びそれぞれのチームが、「体験から学ぶ」方法を習得する。			【奇数クラス】5/13 【偶数クラス】7/8 チームによる「リフレクション」の理論と実践 (北203-204および207-208)				新井、北島、櫻井、 高柳、廣田		<input type="checkbox"/>			

6	各チームメンバーの表出により、事例に対するそれぞれの専門分野からの知見を共有し、目標の設定や援助計画を策定する方法を獲得する。	【奇数クラス】5/20 【偶数クラス】7/15 患者・利用者を中心としたケア会議の理論と実践① (北203-204および207-208)	新井、北島、櫻井、 高柳、廣田	<input type="checkbox"/>
7	各チームメンバーの表出により、事例に対するそれぞれの専門分野からの知見を共有し、目標の設定や援助計画を策定する方法を獲得する。また、チームでこれまでの活動をリフレクションし、今後の自己学習課題を見出す。	【奇数クラス】5/27 【偶数クラス】7/22 患者・利用者を中心としたケア会議の理論と実践② チームによるリフレクション (北203-204および207-208)	新井、北島、櫻井、 高柳、廣田	<input type="checkbox"/>

## 教科書

埼玉県立大学編『IPWを学ぶ－利用者中心の保健医療福祉連携』（中央法規）

## 参考書、教材等

参考文献：より深く理論的なことを学ぶために、次の書籍をお勧めします。

マイケル・A・ウェスト著・下山晴彦監訳（2014）「チームワークの心理学」東京大学出版会

エイミー・C・エドモンドソン著・野津智子訳（2014）「チームが機能するとはどういうことか」英治出版

野中猛(ほか)著（2007）「ケア会議の技術」中央法規出版

## 評価方法

出席コメントシート 10%

宿題シート 10%

最終レポート 80%

## 授業外における学習方法

教材を取りまとめた冊子を配布します。教材を一読したうえで毎回の授業に望んでください。

## 学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント

多学科の学生との混成チームで履修します。欠席の多さや参加度の低さはチームの学びを減少させます。ぜひ積極的にチーム活動に参加し、主体的に学びを獲得してください。

## 授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報

回	講演者氏名	講演の概要	備考
2	中野智紀 先生	東埼玉総合病院・医師	
2	時田美恵子 先生	東埼玉総合病院・栄養士	
2	小泉圭司 先生	元気スタンドポリリズム代表社員・コミュニティデザイナー	

最終更新日：2019/03/31 15:56

印刷

閉じる